



コミュニティ・スクール

# 三鷹の森学園 CS だより

第4号

～地域は学校を支え、学校は地域を結ぶ～

平成二十二年 十一月  
学園長 山田三重子  
会長 石井 章夫

## CS (コミュニティ・スクール)

平成16年9月から、新しい公立学校運営の仕組みとしコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)が導入されました。コミュニティ・スクールは、保護者や地域の皆さんの声を学校運営に直接反映させ、保護者・地域・学校・教育委員会が一体となってより良い学校を作り上げていくことを目指すものです。三鷹市では平成18年度から導入を始め、全国より注目を浴びています。「三鷹の森学園」は第三中学校、第五小学校、高山小学校からなり、平成21年度より開設、1年半が過ぎました。

## 三鷹の森学園 学園長 山田三重子

保護者・地域住民が学校運営に参画し、学校とともに児童・生徒の教育を考えるために、第五小、高山小、第三中の各学校に「学校運営協議会」が設置され、学園には、学校運営協議会の協議機関である「コミュニティ・スクール委員会」が設置されました。そして、これまで「地域部」「サポート部」「評価部」「広報部」に別れ、地域人材による教育ボランティアをコーディネートしながら、学校教育を支援する活動をしていただきました。

学園への愛着や所属感等を高めるために、学園名称「三鷹の森」、学園歌「あすのつばさ」や学園章、あいさつ運動のマーク等、子供たちの原案をもとに牟礼・井の頭にゆかりのプロの方々の協力を得て、作成しました。

作家の舟崎克彦さん、指揮者の沼尻竜典さん、メディア・アーティストの岩井俊雄さん、作家の渡辺真弓さんなどのお力が、子供たちをどれほど励ましたか知れません。今、子供たちが誇らしげに歌う学園歌、仰ぎ見る学園章、挨拶を促すトレードマークなど等、今後共、三鷹の森学園生の一体感を情意面から支える力となると信じます。

## コミュニティ・スクール委員会 会長 石井章夫

学校でもなくPTAでもない児童・生徒への支援を担う団体は、現在たくさん有り日々活動しているわけですが、より直接的に学校と連携をし、子供達の笑顔・地域の笑顔を意識しているのがCS委員会です。

会を構成している団体代表の方々の意見はもちろん、今、子育てにあたり地域で考えなければいけない事の共有など、CS委員会があるからこそ成し得た連携は、今後も大切なもので有り続けると思います。

動き出したからこそ、多くの方々に協力を頂くからこそその諸問題の解決は、本来もっと時間をかけ丁寧に進めていきたいところなのですが、立ち止まる時間ありませんので、問題整理・運営の精査を念頭に、まだまだ、裾野を広げて歩んでまいります。皆様の、さらなる一步を宜しくお願い致します。

## 今回は コミュニティ・スクール(CS) 委員会特集!!



CS委員会(学校運営協議会)の様子

CS委員は誰が  
決めて任期はど  
のくらいなの?

地域の声は  
誰に伝えた  
らいいの?

CS委員会とPTA  
はどうつながって  
いるの?

特に資格はないのだけれど、  
教育ボランティアに登録すること  
はできるの?

CS委員会についての疑問にお答えします。

CS委員会のページをよ〜くご覧ください。

うらへ⇒

青少対第五地区  
委員会  
会長 高島 和美さん



学校農園主  
石井 英章さん

# 地域部



井の頭住民協議会  
会長 岩崎 俊明さん



五小オヤジの会  
代表 菊島 成二さん



東部住民協議会  
副会長  
逆瀬 ますみさん

## 三中生地域ボランティア

三中生は様々な地域ボランティアに参加しました。ボランティア要請など地域の声は地域部が受け、学校との橋渡しをします。



老人福祉施設  
はなかいどう  
お祭りを手伝いました



国際交流フェスティバル  
フェイスパントの  
ブースを担当しました。

## 健全育成



あいさつ運動  
学園で行っている運動を  
地域に広げるお手伝いを  
しています



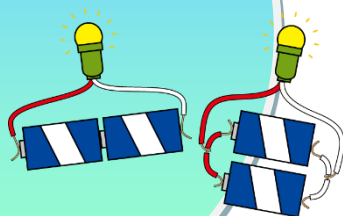
花いっぱい運動  
地域の方々の目を楽しませようと、子どもたちが学校のまわりに花の苗を植えました。同じ時間に三校一緒に行うことで学園に一体感が生まれます。

## サポート部主催行事

学園が行う交流活動に加え、CS委員会でもこのような行事を通して学園の一体感を支えています。



漢字検定



LOBOLAB教室



トライアスロン連合会  
スポーツ指導員  
高橋 正典さん



漢字検定実施委員  
尾崎 晴美さん



地域協力者  
岡本 ひろみさん

## サポート部



主任児童委員  
田所 孝さん



地域協力者  
作家 渡辺 真弓さん



五小PTA会長  
小山 雅巳さん



三中PTA会長  
丹羽 由紀子さん

## 地域人財サポート

三中の職場体験では 100 を超える企業に連絡をとり、受け入れのお願いをしました。多くの地域の方々に支えられていることをあらためて実感しました。



東和ランドテックさん（造園業） ブカシエルさん（美容室）



## 教育ボランティアのコーディネート

教育ボランティアは資格がなくてもできる花いっぱい運動のお手伝いや漢検サポートなどもあります。説明会に参加して登録をし、学校からの依頼があれば活動します。



玉川上水についての授業



三中フリースペース  
代表 西野美由紀さん

高山ふれあい広場  
副代表 則信 美樹子さん



# 評価部



人権相談員  
板橋 利定さん

青少対高山地区委員会  
会長 柳澤 浩子さん



## 学園評価の実施

評価部では、学園の外部評価や各種データをもとに学園の評価を行います。



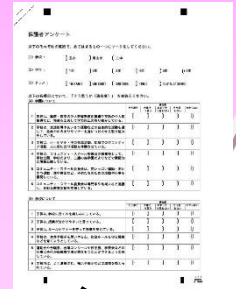
学園評価の結果から学園に取り入れたい委員を三校の校長先生の推薦を受け、教育委員会が任命します。任期は2年です。

### 評価部会の様子

保護者の方々は学園の教育活動をどう思っているのだろうか？知りたい回答を得るためにはどんな質問項目にしたらいいのか？細かい文言まで何度も検討が繰り返されます。

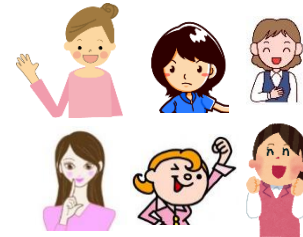
## 学園評価アンケート

アンケートの回収と分析を行います。



みなさんの声を届けるチャンスです。活発な声を届けましょう！！

### 部会員のみなさん



地域協力者  
浅見 忍さん



高山小PTA会長  
吉野 恵蔵さん



地域協力者  
村井 訓子さん

# 広報

## 情報の収集

コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育とはどういうことなのか。地域・保護者の方々の目線で取材します。



教育フォーラムにて  
北澤氏とCS委員

### 広報部取材風景

緑のTシャツを着て取材します。ご協力お願いします。

## 情報発信

学校は今、どうなっているのか？学園になってどこが変わったのか？三鷹の森学園をもっと身近に感じてもらえるような広報紙を作っていきます。



広報部作業風景

PTAとCSのつながりやかかわりも伝えていきます。疑問や質問は広報部まで！



教 え

## 小・中一貫教育

三鷹の森学園には三校それぞれに小・中一貫コーディネーターの先生がいらっしゃいます。今回は五小の加勢先生にお話をうかがいました。

### 数学って算数の延長なんだね！



まず、乗り入れ授業のことからお話しますね。中学の数学の授業には、昨年度は複数の先生が行っていたのですが、今年度五小では河原先生お一人に行ってもらうようにしました。そのほうが進度の速い中学の授業に対応しながらきめ細かな指導ができるからです。同じ先生が行くことで、子供たちの方から手を挙げて質問してくれるようになったのはよかった点ですね。小学校の先生が入ることに意味があります。小学校で習ったことをもとにアプローチできますからね。数学って算数の延長なんだ！というような。個々の学習課題を連絡ノートに書き合うことで、個別支援ができるようにもなりました。

### 三校の先生たちを結ぶ「小・中一貫コーディネーター」

三校の小・中一貫コーディネーターの役割は何かというと、たとえば、1月17日の合同の研究発表会でいえば、まず研究テーマや素案を考え、それぞれの学校におおして説明し、色々な意見を集約し、持ち寄りすりあわせ、コーディネートします。次に分科会（算数・数学、国語、英語、キャリア・総合）がスムーズに動いていく段取りを進めていきます。たとえば、指導案を同じ形式にしたり、会場校の教室数や子供の人数に合わせて教室配置を考えたりします。このようなことを週に一度のコーディネーター会議で行うわけです。



pista.jp - 1807297

### 中1ギャップ解消のキーワードは「交流」

英語の乗り入れ授業では、中学校の英語の先生が小学校の授業の流れや手法、子供が身につけたことを知ったことで、中1の接続期としてコミュニケーションベース中心の授業を設定してくれるようになりました。それから小学校ではなかった「書くこと、読むこと」の導入を中学の先生がやってくれています。そんな風に、教員が交流することによっていろいろな点で理解が深まりました。例えば生活指導にも違いがあります。中学でチャイム着席ができないと言われますが、実は小学校では休み時間が5分しかないなので、担任の声かけで着席を促すような側面もありました。そんな小学校と中学校の違いを理解しあえたのもよかったと思います。プレ中学&部活体験では、子供たち自身が近未来の中学生活を実感することが大事です。9年間を視野に入れることで、出口の部分（中3）で描く生徒像にするために、小学校のそれぞれの発達段階でもっと大事にすべきことがあったのだと気づきましたね。そんな教員間の交流、児童・生徒間の交流を通して、お互いの理解を深め、授業改善につなげ、中1ギャップを解消していこうとしているところです。



今回の取材を通して、先生方が子供の今現在の姿に留まらず、未来の子供たちを思い描きながら授業を組み立て、指導をしてくださっていること、接続期にある中1の子供たちのために小中どちらの先生も尽力してくださっていることがわかりました。学力調査で学園全体の成績がアップしたというのも、そんな先生方の日頃の研究と実践の積み重ねのおかげなのですね。



### ある日の広報部取材風景

プレ中学校体験は小学生もドキドキなら、迎える三中の先生方もドキドキのようです。中学校と小学校の違いをいろいろな場面で実感できるように気を配ってくださっています。たとえば、体育の授業では「みんなは中学校になったからといって50cmも身長は伸びないよね。でもバスケットボールのゴールは50cmも高くなってしまふんだよ」・・・子供たちの緊張を和らげようと授業をしてくださいました。授業を終えほっとした表情で教室から出てきた先生方。でも大丈夫！春になり三中で顔を合わせる頃には、先生も子供たちも今日の日を懐かしく思うことでしょう。